林修先生と学ぶ「国消国産」講座

「地産地消」「国消国産」で

食卓からSDGsを始めよう。

日本の食と農、SDGsの実現のために「地産地消」「国消国産」

私たちが地域でできること
―「地産地消」

日本の食と農、SDGsのために、地域でできる取り組みが「地産地消」。その地域で生産された農畜産物を、その地域内で消費することです。例えばファーマーズマーケットを利用すれば、新鮮な地元の農畜産物に出会えます。また、食材の長距離輸送にともなうCO_2の排出削減につながり、環境への負荷を減らせます。

日本の食と農を未来につなぐ
―「国消国産」

「地産地消」をはじめ、国産の農畜産物を消費することで、食の安心をすすめていくこと。それが「国消国産」。国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方です。日本の食料自給率はカロリーベースで38%。6割を輸入に頼っており、このままでは、いざという時に心配です。生産者は今、消費者ニーズに応える農畜産物づくりに取り組んでいますが、日本の食を守るためには、国産農畜産物をもっと食べて、農業を応援していくことが重要です。

持続可能な社会を
―SDGsにつながる「国消国産」

このまま日本が国内生産を増やさず、食料を海外に依存し続けたらどうなるか。安易に途上国から輸入をすることで、その国の食料を奪う可能性はないのか。「地産地消」「国消国産」をすすめることは、持続可能な食料、農業、地域社会、環境など、SDGsの実現に貢献します。またJAグループは、子ども食堂への食材提供、農業従事者への各種支援、フードロス削減など、さまざまな活動を展開し、SDGsの達成を目指しています。

10月16日は「国消国産の日」

10月16日は1945年に国連食糧農業機関（FAO）が発足した日です。国連はこの日を「世界食料デー」に定め、JAグループは「国消国産の日」として日本記念日協会に登録しました。JAグループは皆さんと共に「国消国産」をすすめ、持続可能な社会の実現を目指していきます。

地産地消

- 地域で生産
- 地域で消費
- 「食」や「農業」の理解
- 食料自給率の向上
- 地場産への愛着心や安心感

例えば私たちにできること

- ファーマーズマーケットを利用する

地域で

国消国産

- 食料安全保障
- 食料自給率の向上
- 生産基盤の維持・拡大
- 次世代の担い手確保
- 多面的機能の維持・増進
- 環境負荷に配慮した農業
- ごはんを中心とした日本型の食生活

持続可能な地域農業地域社会づくり

例えば私たちにできること

- 国産農畜産物を選んで食べる
- ごはん（お米）をもっと食べる

日本で

SDGs 持続可能な開発目標

〈JAグループの取り組み〉

「飢餓をゼロに」
- 子ども食堂やフードバンクへの食材提供

「働きがいも経済成長も」
- 農業従事者への各種支援

「つくる責任つかう責任」
- フードロス削減
- エシカル消費の推進
- 農業生産における環境負荷の軽減　など

「国消国産」はSDGsの達成に貢献

世界に

JAグループサポーター・林修

耕そう、大地と地域のみらい。

JAグループ

テーマ営業出店パートナー

JAグループは、GREEN×EXPO 2027のFarm&Food Villageに出店します

©Expo 2027